

2021年度・関東地区における装具・用具等に関する運用基準について

2021年度の関東地区（学生）における装具・用具等に関する運用基準を以下のように定めます。
これは、公式規則の遵守、プレーヤーの安全等を考慮し、関東地区における試合が円滑に行われることを目的として公式規則を解りやすく解説したものです。
プレーヤーの安全のため、装具・用具等の点検を必ず実施し、正しく装着できるよう周知徹底をお願いします。

記

1. 対象試合

- ・ 関東学生アメリカンフットボール連盟加盟チーム同士が行う試合。
- ・ 他の団体加盟チーム、他地区加盟チームとの試合は、本基準の対象外とし、別途個別に調整を行う。
- ・ ボウルゲームにおいては、大会実施要綱等で規定された運用基準に基づいて行う。

2. 期 間

2021年度秋季公式戦より、本基準に対し新たな改定が設定されるまで。（来年度春季試合含）

3. 運用基準

別紙、運用基準表の通りとする。（具体例を示す）

なお、この運用基準表に記載されていないものは、日本アメリカンフットボール協会制定の

「2020～2021年度アメリカンフットボール公式規則・公式規則解説書」、および「2021年度・公式規則変更内容・決定報」の通りとする。

- (a) 公式規則書の変更、および内容に対し運用を変更する項目
- (b) 公式規則書の内容／運用を説明／補足する項目
- (c) 公式規則書の内容を徹底／遵守する項目
- (d) 試合運用上の徹底事項

4. 補 足

- 1) 正しい装具の着用に関しては、監督・ヘッドコーチが責任をもつことが公式規則で定義されている。
（公式規則書 ユーチの保証 参照）
- 2) 運用基準を満たさない装具を着用したときは、公式規則書通りの適用を行う。
- 3) 突発的事項により運用基準を満たせなくなったときは、担当審判員にその旨を申告のこと。
申告に対する適用の判断は、アンパイヤが行う。
- 4) 最終的な決定は、8月に配布の競技運営細則で変更となる場合もある。
- 5) 既にボウルゲームにおいてドーピング検査を実施。今年度も実施の際は事前に主催団体より実施方法について説明がある。
- 6) 次ページ以降の表において「チームで統一」すべきものについて、合同チームにおいては、各チーム内で統一されていればよい。

2021年度運用基準表 装具・用具・器具、着用・使用区分（関東地区）

FOOTBALL OFFICIALS ASSOCIATION JAPAN
EASTERN CONFERENCE

- 【注】1. この運用基準表に記載していない事項は「公式規則書」に従っての運用とする。
2. ★アンダーライン：今年度の公式規則変更及び運用変更
☆：運用基準についての補足（公式規則の追加、変更ではない。）

	(a)公式規則の変更及び運用変更	(b)公式規則／運用の内容説明／補足	(c)公式規則の内容徹底／遵守	(d)試合運営上の徹底事項
ユニフォーム (他の身につける 衣類含む)	★アンダーウエアは腰（ベルトの線）より下でパンツの外に出してはならないと規定される。	☆装具全般として「必要な装具を着用していない」あるいは「不正な装具を着用している」プレーヤーがいた場合、プレーヤーは最低1ダウンは試合から離れなければならない。ただしプレーを通じて不正な状態になった場合は、正当な状態に戻せば留まることができる。 ☆製造業者のラベルは規定内のサイズであればジャージとパンツに1個ずつまでつけてよい。 ☆製造業者ラベルは装具の統一対象から外れ、チームの中においての不統一は不正な装具に該当しない。付ける場所、デザイン、ラベルの有無は問わない。 (参照：付録E 11) ☆タオルを付ける場所の規制はない。	☆けがを予防するためのハイテクサポーター（商品名：エナスキン、スキンズ等）については、着用の制限はない。 但し、太もも、膝、ふくらはぎ等を一括してサポートする製品（いわゆるロングタイツ式）については、スパッツの運用に準ずるものとする。	☆装具・備品については試合毎にコーチに保証してもらい署名をもらう。 ☆以下の装具の利用は認められている。 1. タオル（1-4-6-a） サイズ：10cm×30cmより大きく、15cm×30cmより小さい 色：無地の白いタオル。白無地以外のタオルは許可されない。チームロゴは可。 枚数：各プレーヤーは1枚のみ オフェンスのインテリア ラインマン1名は、大きさ制限なしの白無地タオル1枚のみ可。 2. 寒い天候の場合のハンドウォーマー。 3. プレー情報を手首や腕に着けてもよい。 ☆以下の物は装着してはならない ポールや相手に対しての付着効果を向上させる、ジャージ、アンダーシャツおよび腕のカバーやパッドの外面部
ジャージ	プレーヤーの番号として0も認められる。従来どおり番号の頭に0を付けてはならない。 試合中に2枚目のジャージを重ねて着用することが認められる。従来どおりベスト、またジッパー、ベルクロ、留め金、その他のファスナーが付いたジャージは禁止。 番号を変更して試合に参加する場合は、従来どおりレフリーにその旨を報告しなければならない。 3人以上のプレーヤーが同じ番号で登録する、あるいは同じ番号のジャージを着用することは反則となる。 プレーヤー名、チーム名等に加えてチームまたは競技団体のロゴの一部に卒業認定あるいは学術認定の印を加えること、およびチームキャプテンを示すための「C」の文字をジャージに装着することができる。	☆ジャージの色の運用規定 対戦チームは予めお互いに協議の上、試合1週間以上前の平日午後6時までに使用するジャージのカラーをメール又はFAXで連盟へ届け出る。 同系色のカラー又はホワイトが重なった場合には、上位校が優位となる。 チャレンジマッチ、入替戦は原則通り、上位をカラーとする。 前述以外の手順については従来どおりとする。 ☆ジャージの脇線の延長はカラー・ホワイト問わず、連盟への事前の申請に基づき許可する。 ☆同一チームのすべてのプレーヤーは、同一で単一の色、同一字体の番号をジャージの前面と後面に付けなければならない。数字の線の太さは、おおよそ1.5インチ（38mm）でなければならない。	☆試合中、相手を惑わせるため、番号を変えてはならない。 ☆同じポジションの2人のプレーヤーが試合中に同じ背番号をつけてはならない。 ☆いかなる場合もジャージにテープを貼ったり、結んだりしてはならない。 ☆破れた（裂けた）ジャージは着用できない。 ☆袖口に裂け目を入れる等の改造をしてはならない ☆ジャージには、プレーヤーの番号以外に、チーム名、大学名、袖のストライプ、認められた標章類のみを付けることができ、襟および袖口に最大1インチ（25mm）の縁取り、および脇の縫い目（腋の下からパンツの最上部まで）に最大4インチ（10cm）のストライプを使用してもよい。 ☆カラーのジャージに白色を含む場合、前記部分に含まれる白色のみが許される。 ☆同一チームのすべてのプレーヤーは、同一色で同一字体の規定の大きさの番号をジャージの前面と後面に付けなければならない。	☆破れた（裂けた）ジャージの交換は、予め用意した同一の番号のジャージが望ましい。やむを得ない場合は、控選手のジャージとの交換は可とする。 1. レフリーに申告し、承認を得ること。 2. レフリーは報告を受けたら、相手チームのヘッドコーチに通知し、変更をアナウンスする。 ☆破れた（裂けた）ジャージをテープ等で補修することは不可とする。 ☆登録選手数が100名以上の場合のみ番号は重複しても良い。ただし同一番号の選手は、攻撃と守備に分かれていなければならない。当然ルールに定められている通り、同一ダウン中に、同一チームの2人のプレーヤーが、同じ番号を着用してはならない。

	(a)公式規則の変更及び運用変更	(b)公式規則／運用の内容説明／補足	(c)公式規則の内容徹底／遵守	(d)試合運営上の徹底事項
パンツ	ニーパッド：ニーパッドはパンツ内にしまわれていること。パンツおよびニーパッドは膝を覆っていること。いかなるパッド、プロテクターも、パンツの外に着用してはならない。(1-4-4-d)	1-4-4-dについて、日本の規定に変更はないが、表現をNCAAと同様とする。	☆同一チームのプレーヤーは、同一色、同一デザインのパンツを着用しなければならない。同じチームで線が入ったり無かったりすることは許されない。 ☆裾に裂け目を入れる等の改造をしてはならない。	膝はどんな状態でも覆われていること。 ・立っている状態で膝が隠れていること ・プレーの結果で膝が出た場合すぐに直す 膝を覆っていないパンツにサポーター等を装着してもニーパッドとして認めない。
マウスピース、グローブやパッド類		☆マウスピースの色は見た目に判りやすいものでなければならず、白色や透明であってはならない。 ☆グローブと手のパッドに関する色の規定はなくなった。 (ボールと類似している色は使用不可：1-4-7-e, 9-2-2-c) ☆プロ・リーグのロゴマーク入りグローブは例外として認める。	☆尾てい骨を保護するヒップパッドを装着する事。改造をしてはならない。 ☆パンツ内に装着のニーパッド。 ☆マウスピースはすべての上顎歯を覆っていること(奥を切ってはならない)。 ☆グローブとは、手をびったりと覆うもので、それぞれの指の部分が分離されており、それぞれの指を完全に覆っており、かつ指と指のあいだを連結させる余分なものがないもの。ミットタイプは禁止。	☆ヒップパッドはジャージの下に完全に覆われており、外に露出してないこと。 ☆ゴム付軍手は使用可。
ヘルメット、フェイス・マスク		☆標準的でない、過剰な形状のフェイスマスクは、不正な装具となる。	☆ヘルメットのデザインは同一であること。 ☆全ての留め金を留めること。 ☆フェイス・マスクは同一色であること。	☆番号をヘルメットに付ける場合は全員同じ場所に同じカラーで付けることとする。 アワードシールは対象としない。 ☆飛沫防止を目的とした自作のフェイスシールドについては十分に安全配慮する、また、許認可を受けて販売されている製品については、日本AF協会発の指針に従うこと。
アイ・シールド、眼鏡、ゴーグル、アイシェイド			☆無色、透明のアイシールド、眼鏡、ゴーグルのみ可。アイシェイドは黒一色で、文字やロゴ、番号、シンボルマークは不可。	
ニーブレス及びアンクルブレス		☆治療及び予防のためのニーブレスは、パンツの下に装着し、硬い物質は全体が完全に覆われていなければならない。		☆パンツ・ソックス・テープ等で完全に覆うこと。ヒンジ等硬い部位を露出させない。ヒンジ等と身体の隙間を見せない。
ソックス及び足を覆う物	ソックスまたはレッグカバーは、色およびデザインが同一でなければならない。タイツ(スパッツ)を着用するプレーヤーは、同じ色のデザイン、同じ色のタイツ(スパッツ)でなければならない。全員が着用する必要はない。	すべての選手は、色、デザインが同一の、見た目にわかるソックスまたはレッグカバーを着用しなければならない。(例外：負傷部の保護あるいは負傷の予防のための、改造がなされていないニーブレス、テープおよびバンデージ。素足のキッカー)	ソックスの長さに関する規定は削除された。	レッグカバーについては、負傷予防のための措置(テーピング等)と同等の位置付けとし、従来どおり色やデザインの制限は設けない。
アクセサリー バンダナ等	プレー情報は、ベルトに着けることも認められる。	☆プレー情報について、従来の手、腕に加え、ベルトへの装着が認められる。	☆フィールド・オブ・プレーおよびエンドゾーンで、プレーヤーは外部から見えるバンダナを使用してはならない。	☆なお、規則の対象は、バンダナに限定されるが、試合における整然とした端正なユニフォーム、装具の着用のため、安全性の理由以外で、選手が頭部に鉢巻き、タオル、手ぬぐい等をフィールド(チームエリアを含む)で着用しないことを、各チームに強く要請する。

	(a)公式規則の変更及び運用変更	(b)公式規則／運用の内容説明／補足	(c)公式規則の内容徹底／遵守	(d)試合運営上の徹底事項
スパイク				☆公共会場、人工芝会場において 金属クリーツの使用禁止
通信手段等	<p>チーム エリアに入ることができるビデオ撮影者によるビデオ映像は、その試合の生放送またはデジタル ストリーミング放送に使用してはならない。チーム エリアに入ることができるビデオ撮影者に関する規定に変更はない。</p> <p>コーチ用通話器等は公式規則の罰則の適用外であるが、試合の運営管理下において各チームが従うガイドライン(ヘッドセットの台数等)が規定された。</p>	<p>☆1-2-3-b リミットライン内へのテレビカメラの立ち入りに対する例外</p> <p>①フィールド オブ プレー内、エンドゾーン内に入ることは許されない。</p> <p>②チームカメラマン(ウーマン)は対外。</p> <p>☆スポッター席については、</p> <p>1. プレスボックス内あるいは</p> <p>2. 両25YD間でスタジアムの最上段まで延長した範囲内のスタンドに設置することが望ましい。</p> <p>ローカルグラウンド等については、学連の運用規定等に従うこと。</p> <p>☆相手チームのサインの撮影することは禁止されている(参照：1-4-11-f)。</p>	<p>☆無線装置を使用したフィールド上のプレーヤーとの交信は不可。</p> <p>☆次の機器の使用は可とする。(チームエリアとスポッター席間)</p> <p>1.ヘッドホン 2.無線装置(トランシーバー) 3.スマホ IP無線</p> <p>☆次の機器をコーチが使用したり、コーチングを目的とした使用は不可。</p> <p>3.TV再生装置、モニター設備</p> <p>4.ビデオ・ビデオカメラ・カメラ・ポラロイドカメラ(チームエリア外で撮影したポラロイド写真の持ち込みを含む)</p> <p>・映画・FAX・電話(携帯含む)</p> <p>5.文書(絵図を含む)伝送機器</p> <p>6.コンピュータ</p> <p>☆次の機器のチームエリアでの使用は不可。7.カメラ(TV含む全てのもの)・拡声器・メガホン・マイク(商業・電波放送を目的としたものも含む)</p>	<p>☆左記1.2は、使用可能を規定したものである。電源の使用については、学連の運用規定に従うこと。</p> <p>☆次の者は、チームエリアおよびその上空には入れない。(カメラ等の使用、取材の禁止、コンピューターの使用)</p> <p>1. チームカメラマン (ウーマン)</p> <p>2. 校内新聞等広報担当者</p> <p>3. 学外広報委託者</p> <p>4. 遠隔操縦式無人機(通称ドローン等の機器)</p> <p>☆チームエリアおよびスポッター席に於いて、スカウティングに適したアプリを使用するための携帯電話の使用を許可する。</p>
その他	<p>☆チームエリアは両20ヤードラインの間となる。</p> <p>☆チームエリアに入ることができるのは、規則どおりのユニフォームを着用した選手と、試合に直接関係のある最大50名までのチーム関係者となっている。医務担当者は、この50名には含まれない。</p> <p>☆試合ボールは各チーム10個以下と規定される。</p> <p>☆バンドや視聴覚機器・照明設備オペレーター等の禁止される行為に対してレフリーは、ダウンを繰り返す、15ヤードの罰則を科す、得点を与える、試合を中止するまたは没収するなど、適切と考えるいかなる措置も行うことができる。</p>	<p>☆すべての試合においてフィールドゴール(含むトライ)時のキッキング・ティーは使用不可</p> <p>☆ボール乾燥機器類をサイドラインの近くおよびチームエリアで使用することは禁止とする。</p> <p>☆プレーヤー、交代選手、及び試合関係者(例：コーチ、トレーナー、マネージャー、審判員)は、審判員が任務を開始してからレフリーが試合の終了を宣告するまで、フィールドでたばこ製品(含む、噛みタバコ)を使用してはならない。</p> <p>☆キッキング・ティーの高さはボールの最下端からグラウンドまでが最大1インチ(約25mm)までとする。</p>	<p>☆チームエリア等の遵守</p> <p>1. コーチはコーチング・ライン(サイドラインから2ヤード外側)まで</p> <p>2. 選手(ユニフォームを着用している者)はリミット・ライン(サイドラインから4ヤード外側)まで</p> <p>☆チーム・タイムアウト以外に、クォータータイム時も水の補給は可とする。</p> <p>☆ユニフォームのデザインを変更する際には、事前に学生連盟事務局にデザイン案を提出すること。事務局は審判部に公式規則との整合性を確認した上でデザインの変更を承認する。</p> <p>☆試合球は新品またはそれと同等であること。</p> <p>☆ターゲティングの反則により、これ以上試合に参加する資格のないプレーヤーは資格を没収されたプレーヤーと定義される。暴力行為、2回のスポーツマンらしからぬ行為、あるいはひどい反則などの他の理由により、これ以上試合に参加する資格のないプレーヤーは退場となったプレーヤーと定義される。退場となったプレーヤーはプレー場内から離れなければならない。</p>	<p>☆フィールドの周囲では学連の運用規定に従うこと。特に、</p> <p>1. 資格没収、退場となったプレーヤーは、ヘルメットとショルダーパッドを外し、チームエリアの最深部で待機する。</p> <p>2. チーム役員(コーチ等)は速やかにフィールドから退去する(スポッター席に留まる事も不可)。</p> <p>3. チームエリアは、次試合の選手がUPするサイドと反対方向に、ゴールラインまで延伸される。この延伸チームエリアは、サイドラインからは6y以後方とする(2020特別ルール、採用期間、会場等は適宜変更)。</p> <p>☆試合球は試合開始1時間5分前までに審判控え室へ提出しチェックを受けること。</p> <p>☆荒天時(または予想される時)のボールについて、合成皮革のボールはゴムボールと同じ扱いとする。</p> <p>☆ターゲティングの反則に対する罰則の厳罰化に伴い、同一プレーヤーが同一シーズンに3回目およびそれ以降のターゲティングの反則を犯した場合、出場停止期間中はチームエリア、スポッター席に立ち入れず、試合前練習にも関与できない。</p>